

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	奈良佐保短期大学
設置者名	学校法人佐保会学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	生活未来科 生活福祉コース	夜・通信	2		10	12	7	
	生活未来科 食物栄養コース	夜・通信			5	7	7	
	生活未来科 ビジネスキャリアコース	夜・通信			5	7	7	
	地域ども学科 こども保育コース	夜・通信			10	12	7	
	地域ども学科 こども教育コース	夜・通信			6	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.narasaho-c.ac.jp/campus_life/mso9ur000000xwwh.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	奈良佐保短期大学
設置者名	学校法人佐保会学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007q7y.html の財務情報関係(PDF)に氏名のみ公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	現職：（一般社団法人）佐保会理事長	自：令和2年10月25日～至：一般社団法人佐保会理事長の職を退くまで	総務担当
非常勤	前職：（国立大学法人）奈良女子大学理事	自：令和3年8月1日～至：令和7年7月31日	総務担当
非常勤	現職：（医療法人）和幸会理事長	自：令和3年8月1日～至：令和7年7月31日	総務担当
非常勤	前職：（社会福祉法人）佐保会理事	自：令和3年8月1日～至：令和7年7月31日	総務担当
非常勤	前職：奈良女子大学教授	自：令和3年8月1日～至：令和7年7月31日	総務担当
非常勤	現職：奈良リズム・ダンス療法研究所代表	自：令和3年8月1日～至：令和7年7月31日	総務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良佐保短期大学
設置者名	学校法人佐保会学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成は、前年度の1月初旬に依頼し、3月に本学WEBサイト(学生支援情報システム saho navi)に全文を掲載・公開している。作成にあたっては、「シラバス作成要領」及び「作成例」を配付し、学生にわかり易く、必要な情報を漏らさないように作成することになっている。提出したシラバスは、教務委員会によって内容を検討し、必要に応じて変更をお願いする必要があることを伝えている。</p> <p>シラバスには、科目コード、ナンバリング、単位数、開講時期、担当教員、学修内容、学修成果、到達目標、授業計画、事前・事後学修の内容及び必要時間、試験実施の有無、教科書、参考書、成績評価の方法・基準について記載している。授業形態については、各学科コースのカリキュラムに記載している。</p> <p>実務経験のある教員等による授業科目については、本年度はシラバスに掲載できなかったため、別途「実務経験のある教員による授業科目一覧」に示し、学生に補足説明している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.narasahoc.ac.jp/campus_life/mso9ur000000xwwh.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目を修了したとき、特に定める場合を除いて授業すべき時数の3分の2以上出席した者について成績評価を行うものとしている。シラバスに記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>学修成果の評価については、単位取得率、GPA、学生生活アンケート、実習等の評価、社会活動、専門教育科目の単位取得、免許・資格の取得、就職先からの評価、実習の評価、自己評価シートに基づく教員との面談等から評価している。</p> <p>成績評価は、A⁺、A、B、C、Dをもって表わし、C以上を合格として単位を認定し、Dを不合格として単位を認定しない。A⁺、A、B、Cの評価を得た者には、それぞれの科目について定められた単位が与えられる。</p> <p>各学期修了後、教務委員会において全教員の成績評価を確認し、課題や問題点を挙げている。</p> <p>より質の高い教育を行うため、直接学生の声聞き授業に反映させることができる「学修成果に関する調査」を全学的に実施し、授業の改善に役立てている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、グレード・ポイント・アベレージ制度及び履修登録単位数の上限制度等に関する内規のとおり実施している。

(目的)

この内規は、奈良佐保短期大学（以下「本学」という。）における成績評定平均値グレード・ポイント・アベレージ（以下「GPA」という。）に基づく履修登録上限単位数について必要な事項を定め、学生の学修意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と学生支援に資することを目的とする。

(定義)

「GPA」とは、各授業科目の5段階の成績評価に対応して4.0～0.0の評点を付与して算出するものである。

(対象授業科目)

GPAの算出の対象授業科目は、学則第22条の成績評価に則って、5段階評価を受けた授業科目とし、本学以外で修得した授業科目又は入学前に修得した授業科目は、GPAの算出の対象授業科目としない。

(成績評価及びGP)

本学の定める成績評価及び成績評定「GP」は、次のとおりとする。

判定	評価名称	評価点の範囲	GP
合格	A ^o	90点以上	4.0
	A	89～80点	3.0
	B	79～70点	2.0
	C	69～60点	1.0
不合格	D	59点以下	0.0
評価なし			
GPA算出対象外	認定	単位認定科目	—

各学期の成績評価の分布状況は、教職員及び学生に公表する。

(GPAの種類及び算出方法)

GPAは、当該学期ごとに算出する学期GPA、当該年度ごとに算出する年度GPA及び在学中の各学期を通算して算出する通年GPAの3種類とする。

GPAの算出は、学期ごとに定められた日(GPA算出基準日)までに確定した成績に基づいて行う。

GPA算出基準日は、原則として前期にあつては9月15日、後期にあつては2月20日とする。

学期GPA、年度GPA及び通年GPAの算出方法は、次の各号の定めるところによるものとし、算出された数値の小数点第3位以下は四捨五入する。

(1) 学期GPA

$$GPA = \frac{\text{当該学期に履修登録した教科科目の単位} \times \text{成績値}}{\text{当該学期に履修登録した科目の単位合計}}$$

(2) 年度GPA

$$GPA = \frac{\text{当該年度に履修登録した教科科目の単位} \times \text{成績値}}{\text{当該年度に履修登録した科目の単位合計}}$$

(3) 通年GPA

$$GPA = \frac{\text{入学時以後に履修登録した教科科目の単位} \times \text{成績値}}{\text{入学時以後に履修登録した科目の単位合計}} \text{の合計}$$

$$GPA = \frac{[(A^{\circ} \text{の科目の総単位数}) \times 4 + (A \text{の科目の総単位数}) \times 3 + (B \text{の科目の総単位数}) \times 2 + (C \text{の科目の総単位数}) \times 1 + (D \text{の科目の総単位数}) \times 0] \div (A^{\circ} \cdot A \cdot B \cdot C \cdot D \text{ (評価なしを含む) の総単位数})}$$

(GPAの活用)

算出されたGPAは、次のとおり活用する。

(1) 井田康子賞等、優秀学生の候補者選定や学内における各種奨学生の選考の基準を、各学科コースの上位25%までを目安にするものとする。

(2) 大学編入等の選考の基準を、学業成績が優秀で、1回生までの成績が各学科コースの上位30%以内かつ、GPAが2.0以上あり意欲がある者とする。

(学修指導計画)

各学科は、GPAに基づく学修指導の計画を策定し、学期ごとに学生の学修指導を行うものとする。

面談等の指導対象者の基準は、GPA 2.0ポイント以下とし、学修指導の要否について学科会議で検討する。

連続する2学期において、各学期のGPAが共に1.0未満であった学生は、学科長から嚴重注意を行う。

連続する3学期において、各学期のGPAが共に0.75未満であった学生は、学長から退学を勧告する。ただし、本人及び担任の意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではない。

各学科は、学修指導を行った結果を教務委員会に報告する。

(GPAの通知)

学生及び保証人へのGPAの通知は、成績通知書に学期GPA及び年度GPAを表示することにより行う。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.narasahoc.ac.jp/campus_life/mso9ur000000xwwh.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学の教育理念 1. 自律する人 2. 自己と他者を尊重する人 3. 事象に自らかわる人、に基づき、学位授与の方針 社会生活に必要な知識と教養を身につけ、社会に貢献できる基礎力と学科の専門的学修成果を保証するため設定した科目の単位を修得した者に、卒業を認定し短期大学士の学位を授与する。また、各コースの学修成果を獲得した者は免許・資格が取得できる。

大学の学修成果 1. 社会生活に必要な知識と教養を身につけ、社会に貢献できる。2. 自律の精神に則り自己管理できる。3. 自己と他者を尊重することができる。4. 積極的に社会と関わることができることとし、生活未来科では、1. 専門の知識と技術を修得し、社会に貢献できる。2. “質の高い介護福祉士”として、多様な介護ニーズに対応できる。3. “調理ができる栄養士”として、地域の健康づくりに貢献できる。4. ビジネスの仕組みを理解し、産業界に貢献できる。5. 学外実習やインターンシップにおいて、社会人として求められる責任ある態度をとれる。6. 自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できるようになることとしている。地域こども学科では、1. 専門の知識と技術を修得し、社会に貢献できる。2. “保育者^{プラス}”として得意分野を活かした保育士、幼稚園教諭、小学校教諭になる。3. 学外実習において、社会人として求められる責任ある態度をとれる。4. 自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる。5. 修得した知識と教養、コミュニケーション能力を活かし

<p>て、地域社会と共生できることとし、科目ごとの到達目標を理解し、各学科で設定した知識や技術を獲得する。</p> <p>卒業するためには、本学に2年以上在学し、学則に定める科目を履修して62単位以上の取得が必要であり、その要件を満たした者に対し、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.narasahoc.ac.jp/campus_life/mso9ur000000xwwh.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	奈良佐保短期大学
設置者名	学校法人佐保会学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007q7y.html の財務情報関係(PDF)
収支計算書又は損益計算書	https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007q7y.html の財務情報関係(PDF)
財産目録	https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007q7y.html の財務情報関係(PDF)
事業報告書	https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007q7y.html の実績報告書(PDF)
監事による監査報告(書)	https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007q7y.html の監査報告(PDF)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007fsx.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 生活未来科・地域こども学科（両学科共通）
教育研究上の目的（公表方法： https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur00000018hx.html ）
（概要）奈良佐保短期大学は、学校教育法に則り、専門の学術技芸を教授、研究し、情操を陶冶して、教養識見高く社会の進展に貢献する有能な人材を育成することを目的及び使命とする。以下 3 つの教育理念を基に教育を行っている。 1. 自律する人(人に決められ、人に指示されて行動するのではなく、その時々状況から判断し、自らの意思で行動することのできる人を育てます。自律する人になってほしいと考えています。) 2. 自己と他者を尊重する人(自分自身の存在を価値あるものとして信頼し、自信を持つことができれば、自己を尊重することができるようになります。そのことは、他者を受け入れ、尊重することに繋がっていきます。自他の区別ができ、他者の思いや行動を理解しつつ、自ら行動できる人を育てます。自己と他者を尊重する人になってほしいと考えています。) 3. 事象に自らかかわる人(人やもの、出来事や状況など、さまざまな事象に自分から積極的にかかわっていくことのできる、行動力のある人を育てます。受身ではなく、自ら事象にかかわることのできる人になってほしいと考えています。)
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur00000018hx.html ）
（概要） 社会生活に必要な知識と教養を身につけ、社会に貢献できる基礎力と学科の専門的学修成果を保証するため設定した科目の単位を修得した者に、卒業を認定し短期大学士の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur00000018hx.html ）
（概要） 1. 本学は、学科共通の基礎教養科目と学科ごとの専門教育科目を以て教育課程を編成する。 2. 学修成果の達成に向けて、卒業に必要な科目と免許・資格取得に必要な科目をバランスよく配置する。 3. 成績評価については、各教科で公表した評価基準に従って達成度を厳密に評価し、単位の実質化を図る。 4. 基礎教養科目では、社会生活に必要な力を養うための「国語表現法」「キャリアデザイン」の他に、奈良を学ぶ科目として「奈良の伝統行事」や「奈良の伝統工芸」などを開講する。 5. 専門教育科目では、学科・コースの特性を活かした科目を開講する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur00000018hx.html ）
（概要） 1. 入学後の学修に必要な基礎学力を有している人 2. 本学の教育理念を理解している人 3. 本学の設定した学修成果の獲得に向けて努力する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000007pi3.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
生活未来科	—	4人	3人	3人	1人	2人	13人
地域こども学科	—	4人	3人	4人	0人	0人	11人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		45人					45人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur000001r3rn.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
生活未来科	80人	63人	78.8%	160人	132人	82.5%	0人	0人
地域こども学科	100人	47人	47.0%	200人	111人	55.5%	0人	0人
合計	180人	110人	61.1%	360人	243人	67.5%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
生活未来科	46人 (100%)	3人 (6.5%)	38人 (82.6%)	5人 (10.9%)
地域こども学科	65人 (100%)	0人 (0%)	60人 (92.3%)	5人 (7.7%)
合計	111人 (100%)	3人 (2.7%)	98人 (88.3%)	10人 (9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
四年制大学・専門学校 介護保険施設・医療機関・委託給食会社・食品会社・企業・小学校・幼稚園・保育園・認定こども園				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）には、科目コード、ナンバリング、単位数、開講時期、担当教員、学修内容、学修成果、到達目標、授業計画、事前・事後学修の内容及び必要時間、試験実施の有無、教科書、参考書、成績評価の方法・基準について記載している。授業形態については、各学科コースのカリキュラムに記載している。</p> <p>年間の授業計画については、教務委員会において各学科、各部署の年間行事等を集約し、前後期15回の授業を確保して教授会に諮っている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業科目を修了したとき、特に定める場合を除いて授業すべき時数の3分の2以上出席した者について成績評価を行うものとしている。シラバスに記載された成績評価の方法・基準のとおり、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>学修成果の評価については、単位取得率、GPA、学生生活アンケート、実習等の評価、社会活動、専門教育科目の単位取得、免許・資格の取得、就職先からの評価、実習の評価、自己評価シートに基づく教員との面談等から評価している。</p> <p>成績評価は、A⁺、A、B、C、Dをもって表わし、C以上を合格として単位を認定し、Dを不合格として単位を認定しない。A⁺、A、B、Cの評価を得た者には、それぞれの科目について定められた単位が与えられる。</p> <p>各学期修了後、教務委員会において全教員の成績評価を確認し、課題や問題点を挙げている。</p> <p>より質の高い教育を行うため、直接学生の声を聞き授業に反映させることができる「学修成果に関する調査」を全学的に実施し、授業の改善に役立てている。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	生活未来科	62 単位	有・無	単位
	地域こども学科	62 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位

GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/campusmap.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	生活未来科	1,060,000円	200,000円	81,000円	ほかコースごとに実習費あり
	地域こども学科	1,060,000円	200,000円	81,000円	ほかコースごとに実習費あり

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>（概要）本学では各クラス担任制を取り入れ、教育や生活の両面できめ細かく指導、サポートしている。特に履修状況や出欠状況は常に管理し、状況に応じて本人と面談を行っている。保証人にと連絡をとり、現状理解と改善を促している。</p> <p>地域こども学科では、パーソナルティーチャー制度を取り入れ、入学から卒業までを同じ教員が担当し、実習前の指導や就職活動の手助け、経済的な問題が生じた場合の改善案など相談にのっている。</p> <p>授業科目等に関する学生の質問・相談に応じる時間帯（オフィスアワー）を全教員に設け、学生に周知している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>（概要）入学後すぐから就職活動に向けての就職ガイダンスが始まり、就職活動に向けたカウンセリング、公務員試験対策講座、履歴書の作成指導、模擬面接などを行い、一人ひとりの持つ資格や個性を生かしながら就職活動のサポートを行っている。定期的に学外専門機関（ハローワーク、奈良仕事iセンター、奈良福祉人材センター）等と連携し、学内にてお仕事相談会を実施している。資格を活かした就職率は毎年ほぼ100%となっている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>（概要）健康管理上留意が必要な学生については、全教職員で情報共有し支援を行っている。また週2回カウンセラーによる学生相談室を開室し、学生の悩みや問題を軽減するとともに、学修支援や生活支援を行っている。</p> <p>障害により配慮や支援を必要とする場合は障害学生学修支援センターにて学修支援学生と認定し、本人や保証人とともに支援計画を作成、支援計画に沿って配慮することにより卒業に繋げている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.narasaho-c.ac.jp/college_info/mso9ur0000004hgg.html